

テーマ「さつきバスと電話で予約バスの利用者負担の格差について」

調査事業の進捗状況報告で挙げた問題の1つにありました、さつきバスと電話で予約バスの利用者負担（バス運賃）の格差については、可児市の事業について市民が評価する事業評価市民委員会でも問題点として提起されています。

居住地域によって、市が行っている事業の負担割合が異なることは、公平性の観点からおかしいと言うこともできますし、一方でさつきバスよりも電話で予約バスの方がサービスが良い（便数や停留所の数など）ため、電話で予約バス利用者の方が多く負担することは当然であるという考え方もできます。

自主運行バスのサービス水準など

さつきバス

サービス水準

路線名：西部線（市役所～西可児駅～市役所）

東部線（市役所～広眺ヶ丘、羽生ヶ丘～市役所）

桜ヶ丘線（市役所～桜ヶ丘ハイツ）

兼山線（市役所～兼山）

運行日：月～土曜日（ただし兼山線は火・木・土曜日のみ）

運行時間：7：30 発～16：30 発

便数・路線距離：西部線	1日7便	22km
東部線	1日7便	23km
桜ヶ丘線	1日6便	往路23km 復路27km
兼山線	1日4便	14.5km

運賃：1乗車200円。ただし、下記の人には半額もしくは無料。

- ・小学生、中学生及び満65歳以上の人
- ・障がい者（身体・知的・精神障がい者）
- ・障がい者の介護者1人（障がい区分の条件有り）
- ・未就学児（無料）

支出

運行補助金をバス運行事業者へ支払いますが、

【運行経費（走行距離（km）×298（円））- 運賃収入】

を実績に応じて支払っています。（298円はH24年度単価）

例えば、西部線を1日1便増やした場合、運行経費は、

$22\text{km} \times 1\text{便} \times 295\text{日} \times 298\text{円} = 1,934,020\text{円}$ （運行日数を295日として計算）

増額すると算出できます。

なお、平成23年度は45,030千円の運行補助金を支払いました。

収入

バス利用者からの運賃収入が主であり、平成23年度は6,004千円の運賃収入がありました。

電話で予約バスについて

サービス水準

路線名：今渡・川合・土田線

春里・姫治線

羽崎・二野・久々利線

大森線

帷子線

運行日：月～土曜日

運行時間：8：00 発～16：30 発

便 数：1日最大18便（9往復）

運 賃：1乗車300円（帷子地区は200円）。ただし、下記の方は半額もしくは無料。

- ・小学生
- ・障がい者（身体・知的・精神障がい者）
- ・障がい者の介護者1人（障がい区分の条件有り）
- ・未就学児（無料）（同伴者1人に対して1人まで）
- ・1歳未満の乳児（無料）

支出

運行補助金をバス運行事業者へ支払いますが、

【運行便数×運行契約単価（337～1,293円）】

を実績に応じて支払っています。

なお、平成23年度は8,013千円の運行補助金を支払いました。

収入

バス利用者からの運賃収入であり、平成23年度は4,658千円の収入がありました。